

敷島北小学校 学校関係者評価書（前期）

平成26年7月18日（金）

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成26年7月18日（金）午後7時～

会場：敷島北小学校会議室

参加者：学校関係者評価委員 新津 健 雨宮清一 小田切保人 中込潤一
保延浩子 長田大仁 窪田英美 （保延昇一・森澤篤史 欠席）
学校側 校長：秋山 均 教頭：河西慶仁 教務主任：松橋 勝

I 学校側から提案された内容

学校側教務主任から6月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

〇市全体と比較してみると次のようになる。

①教職員の「自己評価」結果から

I 学校教育目標・学校経営について

全ての項目に対して、「A評価」が一番多かった。「1 あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」「3 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」という、学校教育の根幹となる事項に対しては、9割以上が「A評価」という高い値を示している一方で、「2 あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている」「4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」という、自身の取り組みの様子については、やや厳しい見方がされている。これは、現状に満足することなく、さらなる向上をめざしている姿勢の現れともとれるが、改めて教育計画を確認し合うことも必要であろう。

II 学校運営について

学校運営については、10項目中の9項目で「A評価」が一番多く回答されたが、これは昨年同時期と比較すると増えている。特に「4 あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している」は昨年同時期や市全体と比較しても「A評価」の割合が大きく、本校職員が率先的に学校運営に携わっている姿を示している。そうした中で、「危機管理マニュアル」の理解については、「B評価」が過半数を占めているが、これは今年度初めに職員の入れ替わりが多くあり、熟知する段階までは達していないのが現状であると捉えられる。今後、様々な場面や状況を想定した訓練を実施することが計画されている。

III 学習指導について

全体的には昨年同時期や市全体と同様な傾向であるが、「8 宿題や家庭学習に対する指導」は市全体と比較しても高く、これは数年前から率先的に取組を続けてきている「家庭学習の手引き」が、学校に定着していることを示しているといえよう。その一方で、「5 評価規準と評価方法を明確にした授業」は、否定的な回答は無いものの、「A評価」が3割ほどで、改善の余地があることを示す結果であった。

IV 生徒指導について

昨年同時期の回答と比較して、ほとんどの項目で「A評価」が多くなっている。これは、生徒指導委員会等で各学年の状況や諸問題について共通理解を深めていることや、懸案事項が生じた際に素早く全校体制で対応をしていることにより、教職員がそうした視点をもって日々の教育活動にあたっている姿勢によるものと推察される。そうした中でも、「3 生き方教育」や、「4 問題行動に対する早期発見や対応」については、さらなる改善が望まれる状況であることが示されている。

V 地域との連携について

本校では、PTAをはじめとして、地域の方々やおやじの会、母親の会など、多くの方々のご支援やお力添えをいただいているが、学年や分掌によって、その関わり方が大きく異なるため、「1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」という項目で「あなたは」と問われると、そうとは言い切れない部分も生じてしまうと推察される。全体的に、保護者や地域の協力態勢については、市全体と比較して高いといえる。

VI 学校の特色に関して

8項目の全てにおいて「A評価」の回答が一番多かった。本校の特徴の一つであるスクールバスの運行についても、日課の運営上は支障とならず、学校の日課が適切に進められているといえる。読書活動については、業前活動で朝の読書タイムを設定するなど、取組を重点化している活動であるが、積極的に読書に取り組むように指導する努力はこれからも意識的に継続していく必要があるだろう。

②「児童アンケート」結果から

- 1 学校は楽しいですか
- 2 クラス(学年)に仲の良い友達がありますか。
 - ・98%前後の児童が、学校や友だち関係に良好な気持ちをもっている。一方で、市全体と比べてみると、否定的な気持ちを抱いている児童も若干みられる。
- 3 こまったことがあったら、相談できる友達がありますか。
 - ・良好な友だち関係の上に成立するであろうと思われる、もう一歩先の友だち関係については、「2」のアンケートの結果と合わせて考察すると、まだそこまでは達していない現状が見えてくる。15%ほどは、否定的な回答をしている。
- 4 人がこまっているときは、進んで助けていますか。
 - ・「すすんでたすけている」「たすけている」の肯定的な回答が市全体を7.5ポイント上回っており、良好な人間関係を築く素地が形成されていることがうかがえる。
- 5 学校の授業は楽しいですか。
- 6 先生はよく勉強を教えてくださいか。
 - ・ともに「A とても楽しい/よく教えてくれる」の回答率が市全体を大きく上回り、特に、「6 先生はよく勉強を教えてくださいか」については、否定的な意見の回答が皆無であった。
- 7 国語の授業の内容はわかりますか。

- 8 算数の授業の内容はわかりますか。
- ・ともに「とてもわかる」が市全体をやや下回っているものの、全体的な傾向としては市全体とほぼ同様であった。
- 9 授業(勉強)でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。
- 10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。
- ・先生との関わりについては、肯定的な回答が市全体を5ポイントほど上回っていて良好な傾向にあるといえる一方で、どちらも15%ほどの児童は肯定的ではない回答をしている。
- 11 授業中に質問や意見を言っていますか。
- ・率先的に発言する児童は、市全体を下回っている。自分から進んで質問や意見を言うことが多くはないものの、場面によっては発言することができるという児童の傾向がみられる。
- 12 宿題を忘れずにしていますか。
- ・「よくしている」「している」の回答が95%近くを占めて良好であるといえる一方で、「していない」児童も数名みられる。
- 13 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。
- ・学年ごとに設定した時間に対し、「いつもしている」の回答が市全体を大きく上回り、「だいたいしている」を合わせると9割以上が良好な回答をしている。
- 14 家の人と学校での様子を話していますか。
- ・「よくしている」はやや下回ったものの、「している」までを含めた肯定的な回答は、9割以上に上り、市全体を大きく上回っている。
- 15 月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。
- ・全体的に市全体よりも就寝時間が若干早い様子がみられるが、就寝時刻が午前0時過ぎの児童も数名いる。
- 16 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- 17 朝ごはんを食べて登校していますか。
- ・16・17の項目については、全体の分布は市全体の値とほぼ同様であるが、本校でも朝ご飯を食べていない児童が数名いる。
- 18 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。
- ・「よくしている」「している」の回答が市全体を上回り、96%以上に上っている。
- 19 月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしめますか。
- ・「2時間以上」の児童は市全体をやや下回っているものの、「30分未満」の児童の割合も下回っており、学校全体としては適度に読書に親しんでいる様子が見える。

- 20 将来の夢や希望を持っていますか。
・市全体の分布とほぼ同様であるが、「もっていない」児童も3%ほどいる。
- 21 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。
- 22 清掃活動をしっかりしていますか。
- 23 委員会活動にしっかり取り組んでいますか。
・21・23の項目については、「A評価」の回答が市全体を5ポイント以上上回っており、やるべきことに意欲的に取り組んでいる姿勢がみられる。

【以下 学校オリジナル設問】

- 25 本を読むことが好きですか。
・ほぼ90%が読書に対して好意的な回答であった。
- 26 先生や友だちの話をしっかり聞いていますか。
- 27 自分の考えを先生や友だちにしっかり話していますか。
・「しっかり聞く」は「A評価」が6割以上なのに対し、「しっかり話す」は「A評価」が4割弱と、話すことに対してやや苦手な様子が見られる。

(2) 今後の方針（改善策）

① 「自己評価」結果からの取組

年度が変わって

今年度は、学校長をはじめ約3分の1の職員の異動があり、新鮮な雰囲気の中かで新年度のスタートを切った。異動してきた職員にとっては、新しい環境の下で教育活動にあたることになり、北小の子どもたちの状況や地域性を理解することはもとより、施設や機器等の取り扱い等も含めて、多くのことを把握しながら、毎日の指導にあたらなくてはならない。一方で、これまでの職員にとっては、新しい風が入ることで、北小を改めて見つめ直す機会にもなっている。それらを融合しながら、北小児童の健やかな成長を目指し、全校体制で教育活動を推し進めている。児童数の減少により、2学級編制ができず、1学級の児童数は多くなっているが、支援員やアクティブの教員加配によって、複数体制が可能になり、児童の様子に細かく目を配りながら指導にあたることができている。

今後の取り組み

I 学校教育目標・学校経営について

全ての項目において「A評価」という評価が一番多かったが、自分自身の状況を振り返る項目については、相対的にやや低めの評価になっていた。教育課程や活動計画を今一度確認するとともに、「北小の教育」を意識しながら、一人一人が自覚をもって教育活動を行っていきたい。

II 学校運営について

万が一のことが起こるかもしれないという意識を職員一人一人がしっかりもち、「危機管理マニュアル」の理解を深めるように努力するとともに、訓練時においてもそれが生かせるように課題意識をもって臨んでいきたい。

Ⅲ 学習指導について

学習活動における評価の重要性が唱えられているなか、一つひとつの授業をより実りが多い大切な時間としていくように、その学習のねらいとともに、評価規準をしっかり意識して授業にあたるように心がけていきたい。合わせて、道徳の指導も実態に合わせながら、計画的に進めるように意識しておきたい。

Ⅳ 生徒指導について

「キャリア教育」の教育計画を再度確認して、全校体制的に取り組んでいくことがこれからは欠かせない。また、児童の問題行動等についてはいち早く職員間で共通理解を図るとともに、児童の様子については小さな変化もキャッチできるようにアンテナを高くし、早期発見を心がけていきたい。

Ⅴ 地域との連携について

外部講師を招いての活動を行ったり、PTAならびにおやじの会や母親の会、さらに多くの地域の方々に、多種多様な面からご協力をいただいたりしながら、本校の教育活動は成り立っている。そうした力をこれからも活用させていただくべく、今後もさらにお力添えをいただくことが計画されている。

Ⅵ 学校の特色に関して

これまで継続的に取り組んできている読書活動に対して、前向きな気持ちを持っている児童の姿勢をさらに高めるべく、より有効な指導を模索していきたい。本校の教育課程を基本にしながらも、改善や工夫の余地も認めつつ、北小の教育がさらに良いものになるように邁進していきたい。

② 「児童アンケート」を受けて

一人ひとりに細やかな目配り・気配り

市全体との比較では、アンケート項目の多くで良好な回答が上回っており、この傾向が維持できるよう、これまでの教育活動を継続しながら指導にあたっていきたい。

一方では、否定的な回答をした児童も若干おり、こうした児童の解消が早急の課題であるといえる。

そのためには、児童の現状をまず把握して、その微妙な変化にも対応できるように、職員間の連携を密にしながら、問題点の改善をめざして、一人ひとりに細かな目配りや気配りをしていきたい。

家庭との連携をいっそう密にして、共通理解を図りながら、心身ともに健やかな児童の成長を目指していきたい。

自分から進んでできる児童に

指名されたり、順番で回ったりしてきたときには発言できるものの、率先して発言できる児童が少ない傾向がある。決して能力的な面からではなく、意識的なものによる部分が多いという現状から、児童が主体的な発言者となれるような工夫や援助の在り方を模索しながら指導にあたる必要があるだろう。それとともに、わからないことをそのままにせず質問できるような姿勢を高めるとともに、そうした現状があることを職員も考慮に入れながら、日頃の指導にあたっていきたい。

してもらうのを待つのではなく、児童自身が率先的に動くことができるように、働きかけをこれからも続けていきたい。

③「自己評価」・「児童アンケート」の相関から

学習に主体的に取り組む児童に

休み時間には、とても元気な声が響いている北小の児童であるが、学習時には受け身になってしまう様子が見られている。学習の主体者は児童であることを、教師だけが意識するのではなく、児童自身にも認識させながら、その前提となる「わかる授業」の創造を、教師集団が一丸となってこれまで以上に目指していきたい。

学年の発達段階をふまえて

6年間という長期的な視野をもって指導にあたることができるのが小学校の利点だと捉えられる。そこで、応急処置的な対処に終わることなく根本的な対応ができるという視点のもと、その発達段階による違いを考慮しつつ、児童と職員、そして職員相互の繋がりをいっそう密にしながら、学校教育を推し進めていきたい。

自分の思いを伝えられる児童に

自分の考えを上手に伝えられなかったり、進んで発言することに抵抗を感じたりしている児童がいる。そのような児童に対して、伝え方や手段を身につけさせたり、抵抗感を和らげたりする方途を探りながら、自分の考えや言いたいことを、相手にきちんと伝わるように話したり、文章で表現したりする力の向上を目指して、昨年度に引き続いて校内研究を進めていく。

II 協議された主な内容

評…評価委員

学…学校側

①今年度の教職員の自己評価について

評…前回より「A評価」が下がった項目がいくつかあったのが目立つが、本年度、教職員の三分の一が入れ替わったのが原因なのだろうか。アンケートの回答の仕方も「A評価」につける難しさがあるのか。

学…学校現場では、数年に一度は大きな異動があることがある。特に、本年度は、年齢層が若返り、戸惑いもあるが、活気あふれる職場になっている。

②中学校へのスムーズな進学について

評…中学校で、行動が気になる生徒の中に北小出身者がいる。現在の本校の児童のアンケート結果から、これからの中学校につながっていることがあるのであれば考えてほしい。

学…最近の中学生は、集団で何かすることは少ないのではないかと。「心の居場所」づくりが大切だ。

評…小学校の頃は、学校に行くことができなかつた子が、社会人になってから就業できている事例もあると聞く。北小の子どもたちは、素直だが、発言力が弱いという実態が報告されたが、現在、いじめや不登校等の問題はありますか。

学…現在、不登校児童はいない。

評…中学校に入って、少人数で過ごしてきた敷島北小の子ども達が影響されてしまうことがあるか。

学…入学当初は翻弄されてしまうこともあるかもしれないが、子ども達はことがわ

かっているので、長い目で見守っていくことが大切だ。

評…アンケートには、学校独自の項目がいくつかあるが、特に「自分の考えをしつかり伝える」などは、市全体での実施し、学校の特徴を見てもみる必要がある。

評…「自分の考えを公表する」ということは、大人でも難しいことである。

評…「母親の会」は、子ども達のために活動しているが、できれば、多くの方にメンバーに加わってほしい。また、学校や地域の行事に大人（保護者）の方に積極的に参加（協力）してほしい。忙しい中であるからこそ、時間を作って参加することで子ども達の心に響くのだと思う。

評…小学校から中学校へ上がるときにギャップがあるように思う。中学校では、発言できるか否かは、内申書に影響する。まじめで勉強熱心な子が意欲的に頑張りすぎてパンクしてしまうというような事例も聞く。中学校まで見据えた教育を市全体で考えて行かなければならないと思う。学校間の格差がなく均一になるような学校づくりをお願いしたい。特に、少人数できめの細かい教育、地域の力を活用した北小の特色を出し、自信をもって行動できるような子ども達に育てていくことが大切である。

学…学校教育の中で、スピーチなどで場数を踏ませ、子ども達同士が良きライバルとなって切磋琢磨し、中学校でも平常心で行動できる子どもを育てることが理想である。

評…本校は、児童数が少ないので、全職員が全校児童の顔と名前を覚えてもらえたり、クラス替えがなかったりで、強いつながりができるメリットもある。中学校では、自分中心の生活が始まり、友達との関わりを持たせないと不登校が生まれる心配がある。

学…教育の手法の違いがあるので、一概にどちらがいいとは言えないが、きっかけづくりが大切になる。

評…学校でうまくきっかけづくりをしてほしい。

学…時間の確保と場の設定を工夫して、うまく組み合わせ取り組みたい。

評…小・中・高とその場面で、教師の対応は違ってくると思うが、対応できる精神力、縦の繋がりや厳しさも学ばせたい。教師と子どもの信頼関係が築けるように信念を持って教育活動にあたってほしい。

学…そのことは、一つの文化でもあり、無償の行為（教育）でもある。この地域に根ざした最大の利点であると思う。

③教員の多忙さの解消について

評…新聞報道もされたが、「日本の（中学校の）教師は、自信がなくて、世界一忙しい」と言われているが、学校の教育現場でゆとりはあるのか。

学…生活指導も含め、あらゆることが学校に任されてきて、多忙なことは事実である。「教育の在り方」が各国で違うので、時間数だけで比べるわけにはいかない部分もある。

評…多忙であるとは思いますが、健康に留意し、教育活動にあたってほしい。

学…今後、主に中学校に教員以外で人材派遣をし、教員の生徒指導などの負担を減らす施策がとられるという情報もある。本校では、忙しい中だからこそ、規模の小さい本校の利点を生かし、職員間の連絡を密にして、職員集団（チーム）として、これからも北小教育に力を注いでいきたい。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 1 教職員の自己評価でもっと「A評価」が付けられるように自信をもって教育活動に取り組んでほしい。
- 2 「豊かな表現力の育成」をテーマに取り組んでいる校内研究に力を入れることで児童の表現力を伸ばす指導に期待したい。
- 3 「学校は楽しい」「仲良く遊ぶ友達がいる」「わからないことは先生に聞ける」などの項目で、さらに「A評価」が増えるようにしたい。

II 特徴

- ・今回の教職員の自己評価書及び児童アンケートの結果から、全体的には改善された項目が多く、評価も「A・B評価」がほとんどを占め、良好な結果であった。
- ・少数ではあるが、「学校が楽しくない」「困ったときに相談できる友だちがいない」と感じている児童がいることが気に掛かる。
- ・授業中に質問や意見を言う児童が増えてはいるものの、市全体との比較では、まだ「A評価」の割合が少ない。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇「学校が楽しい」「困ったときに相談できる友だちがいる」に「C・D評価」をした児童に対して、「Q-U検査」の結果等も踏まえて、フォローする体制を築いていかなければならない。特に、中学校進学を視野に入れ、発達段階に応じた指導・支援に力を注いでいく必要がある。
- ◇「学校が安全で楽しい場所」となるようマニュアルの見直しや訓練等を実施し、限られた時間の中で、実効性を伴う活動に結びつける必要がある。
- ◇教職員間の共通理解を図り、さらに充実した支援体制を築いていくことが望まれる。

※特記事項

なし

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 長田 大仁